

## 白血病患者の日常生活に関する調査成績

(分担研究：小児期白血病患者の生存の質改善に関する研究)

宮崎澄雄

7施設における外来通院中の白血病患者276例につき医師による報告，うち213例についてはさらに家族による患者の日常生活の報告を得た。-2SD以下の低身長は13例(4.7%)であり，うち6例が下垂体性と確認された。女子患者の初潮は平均11歳7カ月であり，性早熟傾向が示唆された。通学中で外来治療中の患者65例の平均休学日数は1カ月に3日であった。視力低下は8.9%，難聴は2.3%にみとめ，+20%以上の肥満は6.2%であった。

見出し語：白血病，長期生存，低身長，性早熟，休学，視力低下，難聴，肥満

対象) 小児白血病の治療成績の向上とともに長期生存例が増加している。しかしそのような生存例が満足な日常生活を必ずしも送っていない。今回，治療中あるいは治療終了例における患児の日常生活の実態を把握するために医師および患者家族にアンケート調査を行った。

対象は本研究班の7施設に通院する初診より1年以上経過した白血病患者である。医師と患者家族が記載する二種類の個人調査表を作成した。分析し得た症例は医師記載用276例，家族記載用213例であった。

成績) 病型は276例中 ALL 254例(92%)，ANLL 19例(7%)，CML 3例(1%)であり，男女比

は男145例(53%)，女131例(47%)であった。診断時の年齢は0-16歳で平均5歳，記載時の患者年齢は2-5歳 36例(13.0%)，6-11歳 104例(37.7%)，12-14歳 64例(23.1%)，15-17歳 44例(16.0%)，18-25歳 25例(9.1%)，26-32歳 3例(1.1%)であった。

理学的所見の異常としては，-2SD以下の低身長は13例(4.7%)であった。女兒10例のうちホルモン検査により下垂体性と確認された例が6例あった。肥満は+20%以上の肥満度を示すものが17例(6.2%)であり，うち+40%以上が6例であった。知能低下は10例(3.6%)にみとめ，白質脳症が1例(0.3%)あった。

佐賀医科大学小児科 (Department of Pediatrics, Saga Medical School)

家族記載用については、213例中の就学状況内訳は未就園(学)29例(14%)、通園11例(5%)、通学162例(76%)、就職11例(5%)である。休学日数は治療中の65例(40%)については、病院への通院のための休学が1カ月に1~10日(平均2.6日)であった。治療終了例の97例(60%)については、通院のための休学が1カ月0~4日(平均0.2日)であった。

通学中の162例における学校体育への参加状況は普通参加147例(91%)、一部参加12例(7%)、見学3例(2%)であり、一部参加と見学の理由として医師よりの指示は3例のみであり、他の12例は親の判断によるものであった。

家族記載の異常所見としては、心理不安は213例中3例(2.3%)と少ないが、視力低下は19例(8.9%)と多く、難聴は5例(2.3%)、歯牙の異常は18例(8.5%)であるがほとんど歯である。初潮時期は対象32例についてみると、9~16歳にわたり、平均11歳7カ月であり、9歳は3例、16歳は4例であった。

**考察** 今回の調査は治療施設や治療プロトコールが異なり、また対象例の記載時期や年齢が様々であり一律に論じたいところがある。しかし、低身長が4.7%にみられ、下垂体よりの成長ホルモン分泌低下によるものが6例あったことは注目すべきであろう。近年、白血病の中樞神経浸潤予防のための頭部放射線照射が成長ホルモンの分泌阻害を招来するとの報告が多くなっている。この成長抑制と関連して性早熟が問題となっている。本調査では初潮の平均年齢が11歳7カ月であったが、これは健康児の平均12歳11カ月より1年4カ月早い。

最近 Leiper らは白血病における頭部放射線照射が視床下部下垂体系の障害をきたし、性早熟さらに身長発育の抑制につながるという、白血病診断時の年齢が早い程、初潮が早いと指摘している。

肥満は健康児でも+20%以上のものが年齢差により2~8%にみられるが、本調査では+40%以上例においてホルモン検査などが必要と思われる。

白質脳症は晩期障害のなかでもっとも重篤なものであり、放射線療法や化学療法剤の選択など治療法の検討が必要であろう。

治療中の休学日数が多い場合には1カ月に10日近くもあり、これは外来での強力な治療法により止むを得ないものと思われるが、施設によりかなりの差がみられた。

眼科や耳鼻科的障害として、白内障や難聴は著者らも報告しており、治療との関係が検討されるべきであろう。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



7施設における外来通院中の白血病患者 276 例につき医師による報告, うち 213 例についてはさらに家族による患者の日常生活の報告を得た。- 2SD 以下の低身長は 13 例 (4.7%) であり, うち 6 例が下垂体性と確認された。女子患者の初潮は平均 11 歳 7 ヶ月であり, 性早熟傾向が示唆された。通学中で外来治療中の患者 65 例の平均休学日数は 1 ヶ月に 3 日であった。視力低下は 8.9%, 難聴は 2.3% にみとめ, +20% 以上の肥満は 6.2% であった。